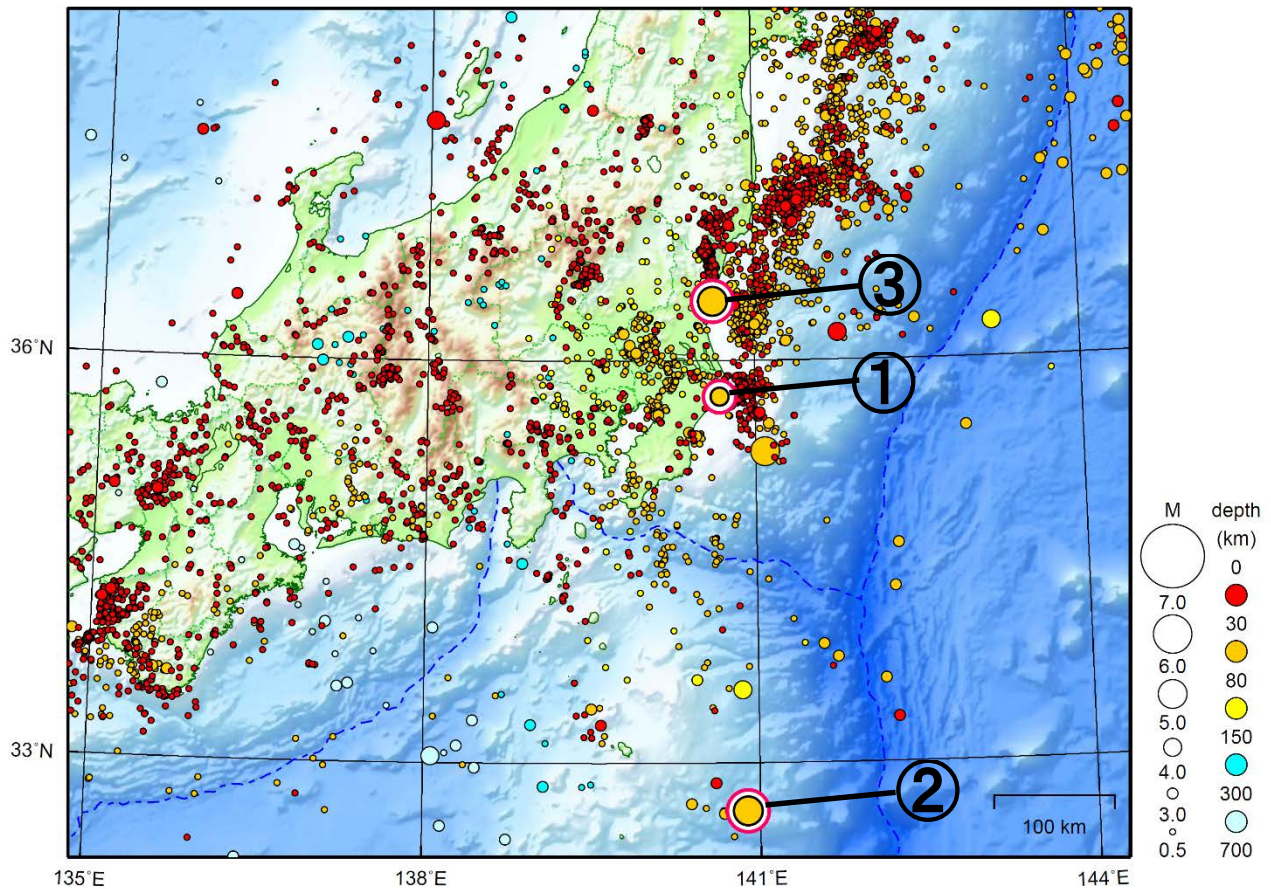


関東・中部地方

2018/03/01 00:00 ~ 2018/03/31 24:00

N=4962



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 3月13日に千葉県北東部でM4.9の地震（最大震度3）が発生した。
- ② 3月25日に八丈島東方沖でM5.8の地震（最大震度3）が発生した。
- ③ 3月30日に茨城県沖でM5.1の地震（最大震度4）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は[茨城県北部]である。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

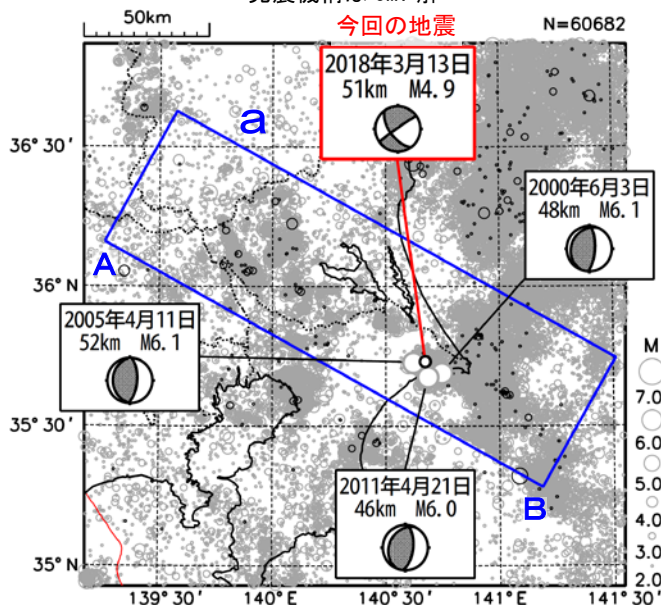
3月13日 千葉県北東部の地震

震央分布図

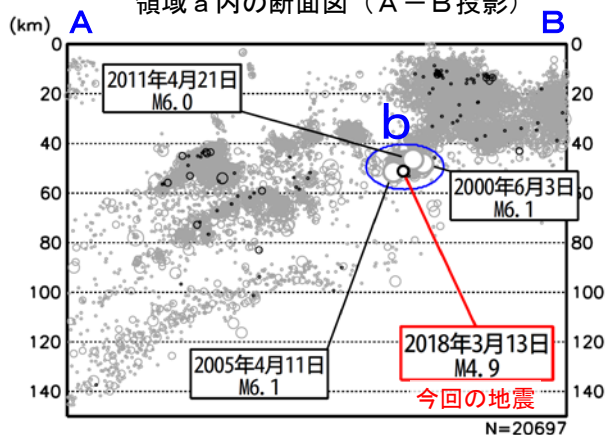
(1997年10月1日～2018年3月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

2018年3月以降の地震を濃く表示

発震機構はCMT解

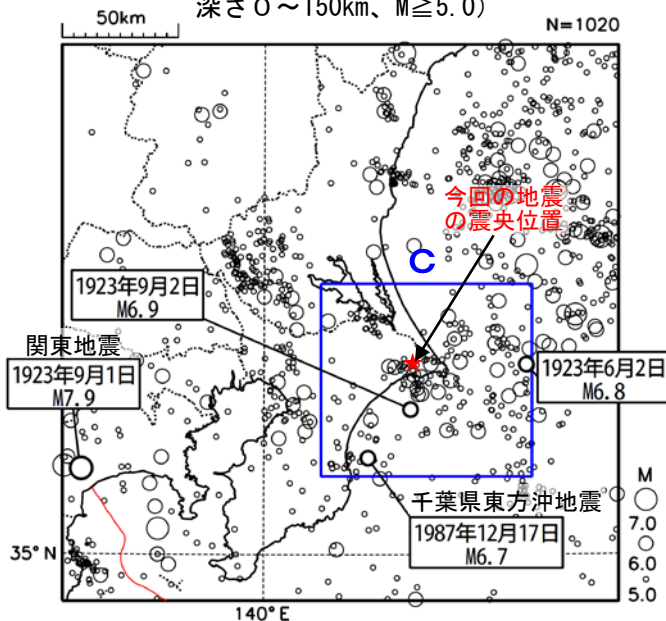


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

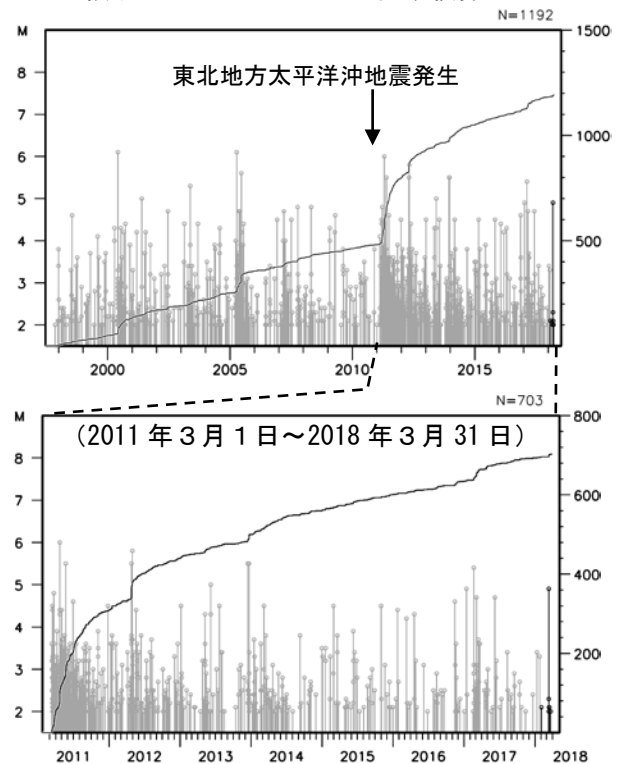
(1923年1月1日～2018年3月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



2018年3月13日15時46分に千葉県北東部の深さ51kmで $M4.9$ の地震 (最大震度3) が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型である。

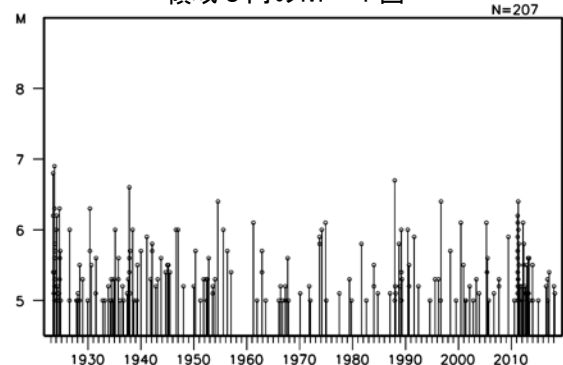
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、 $M6$ 程度の地震が時々発生している。東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動がより活発になっている。

領域b内のM-T図及び回数積算図

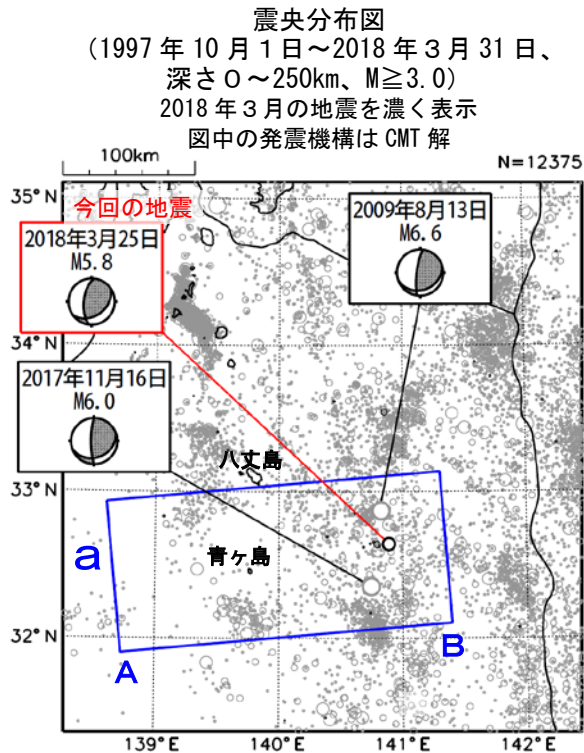


1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M6$ 程度の地震が時々発生している。1987年12月17日にフィリピン海プレート内部で発生した千葉県東方沖地震 ($M6.7$ 、最大震度5) では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

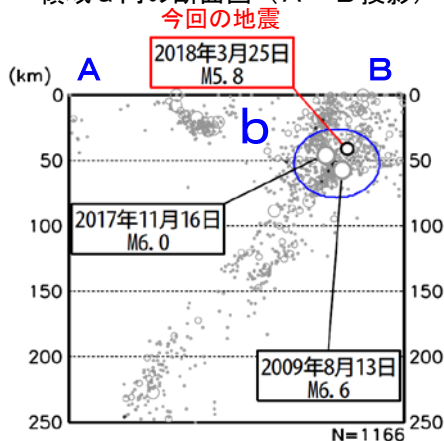
領域c内のM-T図



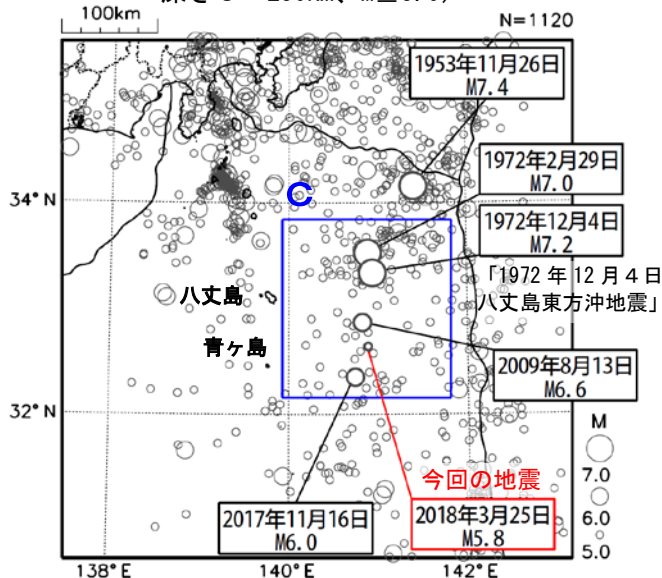
3月25日 八丈島東方沖の地震



領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図
(1923年1月1日～2018年3月31日、
深さ0～250km、 $M \geq 5.0$)

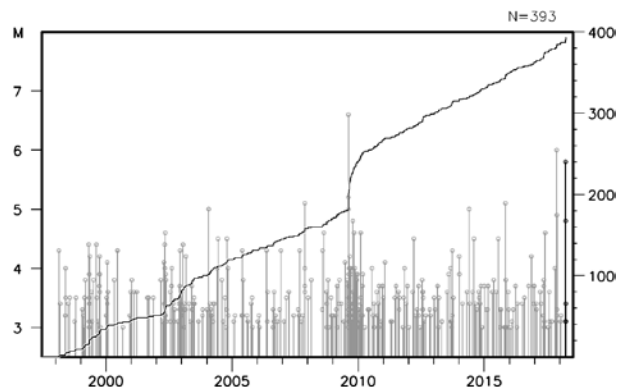


2018年3月25日23時37分に八丈島東方沖でM5.8の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

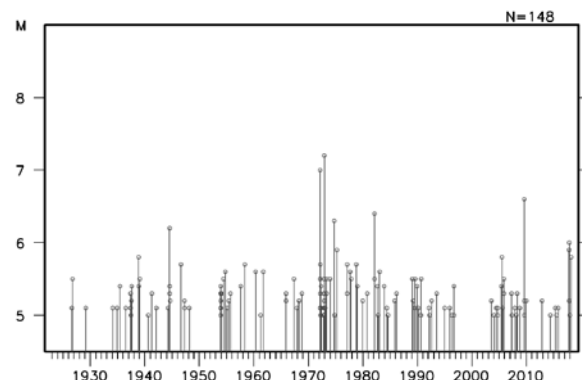
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、2009年8月13日にM6.6の地震(最大震度5弱)の地震が発生している。この地震の発生後、M5.0以上の地震が同日中に2回発生するなど、地震活動が一時的に活発化した。また、最近では、2017年11月16日にM6.0の地震(最大震度3)が発生した。

1923年以降の活動をみると、今回の震央付近(領域c)では、1972年2月29日にM7.0の地震(最大震度5)が発生し、千葉県館山市布良で最大23cmの高さの津波が観測された。また、1972年12月4日にM7.2の地震(最大震度6、「1972年12月4日八丈島東方沖地震」)が発生し、和歌山県串本町袋港で最大35cmの高さの津波が観測された(いずれの地震も津波の高さは、験震時報(第38巻)による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図



3月30日 茨城県沖の地震

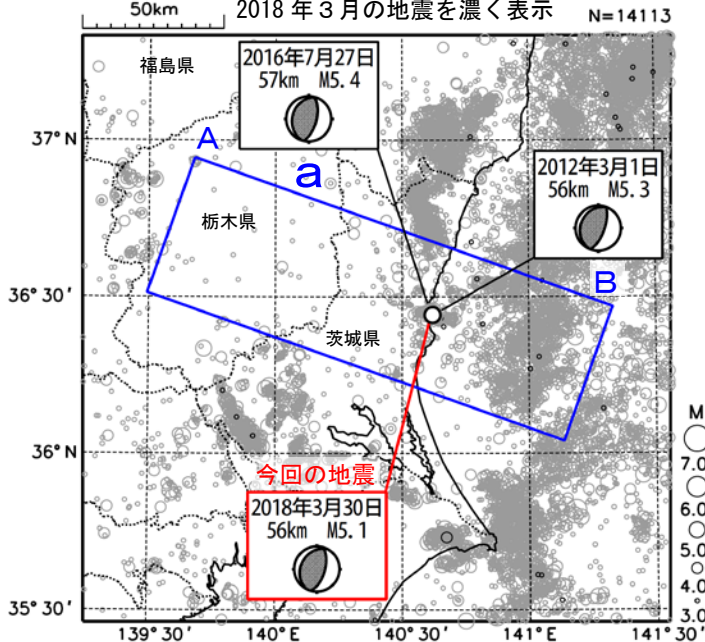
※情報発表に用いた震央地名は「茨城県北部」である。

震央分布図

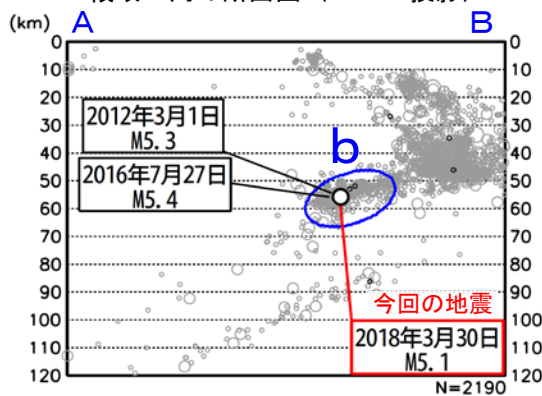
(1997年10月1日～2018年3月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 3.0$)

2018年3月の地震を濃く表示

N=14113



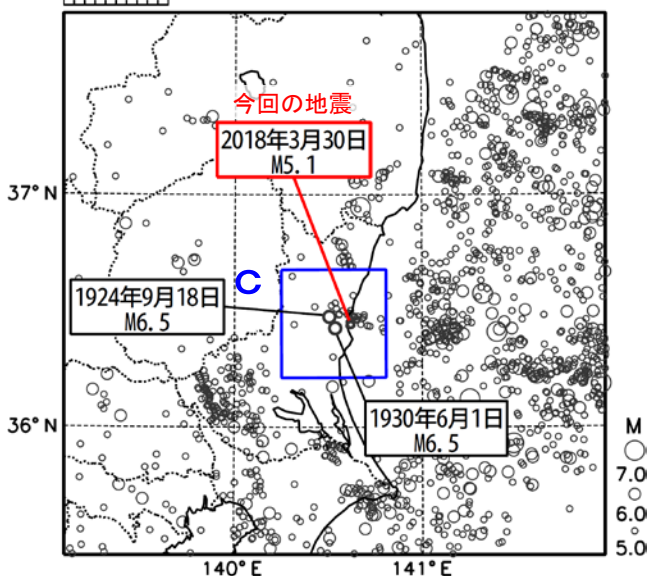
領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2018年3月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

N=1364



2018年3月30日08時17分に茨城県沖の深さ56kmでM5.1の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、M5程度の地震が時々発生している。東北地方太平洋沖地震の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震 (最大震度5弱)、2016年7月27日にはM5.4の地震 (最大震度5弱) などが発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域c) では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震 (最大震度5) では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図

